

完全保存版

治る？ 治らない？ どのくらい大変？

史上初！

ひと目で分かる。

「病気の偏差値」

がんや心臓病が危ないということは知っていても、どの病気がどのくらい怖いのかはなかなかわからない。前代未聞、放っておくと死に至る病気を、危険度順にランク付けしてみた。

ランキンング

眠いの眠れず死んでいく

このところ、寝付きが悪い。体は疲れているのに、熟睡できず、睡眠不足で日中もボーっとしてしまう。なのに、昼寝もできない。50歳も過ぎたし、歳のせいだろうか。いや、仕事でストレスが溜まっているから

だろうか……。Kさん(51歳)は、当初は単なる不眠症だと思っていた。だが、そのうちに一睡もできなくなって、やせ細り、食事をしてでも食べ物が呑み込めなくなって、声も出しにくくなった。つい

には眠れないのに寝たきりとなり、8カ月後、その状態のまま亡くなった。「致死性家族性不眠症」という遺伝性の病気をご存知だろうか。治療法はなく、発症から1年ほどで必ず死に至る病気だ。厚労省が発表した2011年の日本人の死因別死亡

率は、がん29・5%、心疾患15・8%、脳血管疾患10・3%。これらの病気が命を脅かすということはよく知られているが、致死性家族性不眠症のように、患者数は少ないが恐ろしい病気、大したことないと思っ

ていても実は危険な病気と、今回の本誌は、放っておくと死に至る重大な病気の危険度を「偏差値」で表して一覽表にまとめた。死亡率や、発症から死に至るまでの時間、治療法の有無、QOL(生活の質)の変化などをもとに、編集部が独自に評価したものだ。偏差値が高いほど、危険な病